



# YMCA

## 大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神を高く、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

月刊 TheYMCA 付録  
 編集・発行 / 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7番地  
 大阪青年 発行：錦織一郎 編集：大阪YMCA広報室  
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6  
 TEL:06-6441-0894 FAX:06-6445-0297  
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/  
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

# 大阪青年

2006 May. 5

No. 584

## YMCA 学院高等学校



# 多彩な出会い通じ実り豊かに

## 「学校」は誰のもの、誰のためにあるのか

2002年春の開校から現在までの間に「学校」は誰のもので、誰のためにあるのか、どのような人を育てているのかと悩むことが幾度もありました。

本校は、転入学・編入学の制度があり、毎月入学検定をしています。一人でも多くの方に入学していただきたいという願いとは別に、「何の問題もない、従順で優秀な意欲のある人に来て欲しい」と

の思いが頭をよぎる時があります。なぜなら、開校以来、さまざまな難問に遭遇し、出来事の大きさに立ちすくみ、ただ、祈るばかりということすらあったからです。

生徒が、本校の門を叩くまでの経緯はさまざま、年齢、興味、関心、学校への思い、いわゆる成績も、一人ひとり驚くほど違います。当然、求めているものも異なります。

同じような背景と希望、成績を持ち、従順で勉強意欲のある方に入学してもらいたい。そうすれば、問題に右往左往することなく、良い教育(?)ができて、そして良い成果(?)を達しつつ、楽しく働ける(?)と考えることがあります。

その時、「私たちの学校の設立意図は何か。学校は誰のためにあるのか。何のための学校なのか。人を育むとは・・・」という問いがいつも思い起こされます。

人が人として育つには、さまざまな人と出来事との出会いが必要です。その出会いには、嬉しい、また悲しい出会いもあるでしょう。ただ苦悩するだけという大きな問題との出会いもあるかもしれません。でも、人は出会いの中でしか実り豊かになることはできません。

そして、その出会いに寄り添い見守る存在が自分にはある、という実感も大切で、共に喜び泣き、黙って支え祈る。時には声があげ応援する。そのような人と場があるということです。

戦後の新しい教育制度の中で、「いつでもどこでも誰でも学べる」を掲げ、通信制高等学校がスタートして、今年で60年。この間でさえ、物心両面の、大きな変化が表出し、周囲の光景や私たちの思いも持ち物も様変わりをしました。

だからこそ、教育の意味と役割の変遷、さらに学校制度誕生の流れと思考を理解し、私たちの社会をどのように考えるのかの思索が大切となります。

いろんな人がいろんな夢と重荷を持ち集っています。そこには、当然摩擦があり、問題が発生します。それこそが「出会い」「社会」です。私たち一人ひとりが幸せな歩みをするために「社会」「出会い」は必要不可欠です。

そのことを忘れずに、私たちは、適切に現状を把握しつつ、一人でも多くの方に入学をしていただきたい。そして、一人ひとりが多彩な出会いを通じて、新しい世界に飛び出し、幸せを感じつつ、それぞれの場と方法で、人を紡ぎ社会を拓いていくことを祈っています。

YMCA 学院高等学校

校長 桜井 和之

## 地の塩

▼新しい年度が始まって、1カ月が経った。学校や職場には、新人や転校、転職あるいは転勤者が加わり新しい年度に相応しい雰囲気にも包まれていない。だが、私たちの社会では、静かにそして足早に、大きな変化が進んでいるようだ▼日本の人口が、初めて減少したことが、明らかにされたという。出生者数が死亡者数を下回った結果生じた自然減は、日本の歴史上では初めてのこのようだ。今後、拡大していくこの傾向は、国立社会保障・人口問題研究所によると、1億2800万人の我が国人口が、2050年には1億人に2100年では6400万人になると推計している。少子化が言われ始めた頃から予測された事ではあるが、政府や研究機関の見通しよりも早まったようである。一方では、いま話題となつて「団塊の世代」が、定年に達する来年あたりからは、高齢化が一層顕著化し、年々伸びている長寿化とも重なって社会構造に大きな変化をもたらす。少子化・高齢化・長寿化は色々な問題を生むとともに、社会の活力を減衰化しかねない要因である。こうした現象は、産業、経済、財政、労働、雇用、教育、社会保障制度等のあらゆる面に互いに関連し合いながら影響を及ぼすことから、その対応が最も急がれる政策上の課題であり、社会自らも無関心ではおれない問題でもある▼YMCAは、このような変化が生み出すさまざまな社会の現象や課題に対して、YMCAのミッションにたった取り組みを通して、社会に関わっていくことが求められている。非営利の公益組織であるYMCAの役割は、ますます大切になってくると言える。(善)